

バケツリレー訓練

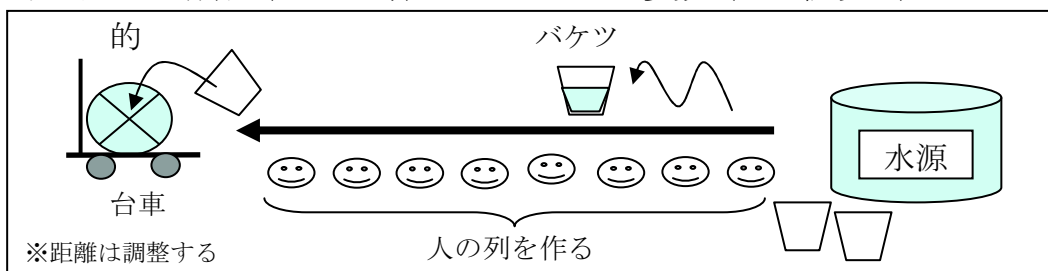
阪神・淡路大震災のときに応急消火活動として多くの場所で実施されたバケツリレーの訓練方法や並び方などを紹介します

1 ねらい

小型動力ポンプなどがない場合の消火方法として、「バケツリレー」について学びます。また、消火方法を訓練するだけでなく、大災害時に協力することの大切さを実感できるメニューです。

2 必要なもの

(品目)	(数量)
・水源（プール、組立水槽など）	1つ
・バケツリレーの的	1セット（競技時は2セット）
・的を乗せる台車	1セット（競技時は2セット）
・水を入れる容器（バケツ等）	多数（10個以上）



※基本的な準備例

3 いろいろな訓練方法

(1) 競技形式

バケツリレーを2チームで同時に行う競争方法です。消防署によっては、水が溜まると風船が割れるように工夫された的やサイレンが回るようになっている的など、競技形式で実施するための水槽を配置している消防署もあります。

競技形式は盛り上がり易い反面、「夢中のあまり動作が雑になる」、「安全管理が疎かになりがち」等の欠点もあるので、事故やケガには十分に注意をしておく必要があります。

(2) その他の工夫

バケツリレーは、「的まで水を運ぶ」という作業を全員で行う訓練です。全員が意識集中できるよう、資機材は可能ならば「火災をイメージできるもの」・「楽しめるもの」を準備しましょう。

例えば、カエル模様になっている水槽が消防署に配置されています。着色した水でバケツリレーすると、水のたまり具合がリアルタイムで確認でき、最後にはカエルの模様が出来上がります。「楽しめるもの」は飽きさせることを防ぎ、意識を集中してもらう工夫の一つです。

4 並び方のいろいろ

それぞれ一長一短があります。訓練参加者の状態（人数や熟練度）により、どの並び方にするのか選択して下さい。

① 一列リレー

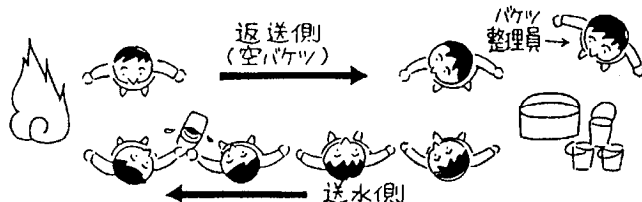
人数が少ない場合に適している方法。

約1.5mの間隔で一列に並び、水源から火元までバケツをリレーします。

空バケツを運搬する人員は送水側人員の1/5程度とします。

欠点は背中側が見えないこと。必要に応じ安全監視担当者を配置しましょう。

（例えば、列が道路横断する場合など）。

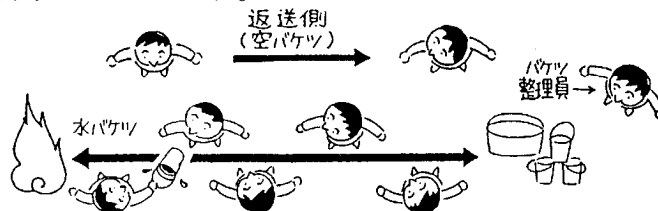


② 千鳥リレー

一列リレーの応用例。

一列リレーを一人ずつ交互向かい合わせになることで、お互いに相手の背中側の安全確認を行うことが出来る方法。

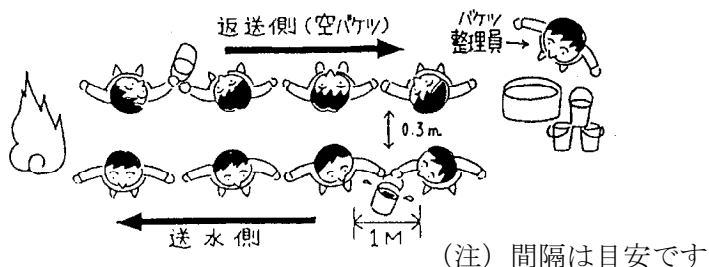
欠点は人が並び終えるのに少し時間がかかります。



③ 二列リレー

人数が多い場合に行う方法。

送水側、返送側の二列が背中合わせに並び、それぞれが安全確認をしながらバケツをリレーする方法（向かい合わせに並ぶと、安全確認が背中越しになり困難になります）。間隔は片手間隔（約1m）とする。ただし人数が少なめの場合、送水側を約1m間隔で配置し、残った人数で返送側（空バケツ）を担当する。



ワンポイントアドバイス

☆バケツリレーは、大勢の人がお互い協力し合わないとうまくいきません。

まずは、事前説明をしない状態で実施し、工夫・協力することの大切さを体験していただくのもよい方法です。また、バケツリレーはかなりの重作業ですので、子どもや高齢者の方などは無理をせず、ケガのないように実施しましょう。